

第3回 バス系統ナンバリング検討会 議事概要

平成30年8月29日(水)10:00~12:00
合同庁舎3号館8階 自動車局第一・第二会議室

- 資料説明の後、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。
- ガイドライン案の226行目、主語が不明確ではないか。
- 地域に複数のバス事業者が存在する場合、事業者同士だと数字の調整が困難。調整役として行政の力が必要。
- 漢字によるナンバリングが定着している場合は、全く新しいものを考えるのではなく、漢字をローマ字読みにするなどの対応でも良いということがわかるようにしてほしい。
- 母国でバスに乗る文化がない人たちは、グーグルマップ検索でルートにバスが出てこないと、そもそもその地域にバスが走っていないと思ってしまう。
- 外国で知らないアプリをダウンロードするのには抵抗があると思う。グーグルマップであれば、ほとんどのスマホに最初から入っていることが多い。グーグルマップにバスの情報を整備することで、外国人にとってよりバスが使いやすくなるのではないか。
- 行き先表示について、外国人にとっては、行き先より主要な経由地(観光地)を表示することが重要。
- ナンバリングを実施するにあたっては、バス停の表示とターミナルの路線図の張り替えに手間と費用がかかる。
- 行き先表示器がLEDであれば、変更しやすいが、方向幕式だと変更には費用がかかる。例えばダッシュボードに番号カードを置くことで対応することも考えられる。
- このガイドラインを作ったあとが重要で、着実に実行するためにも自治体へもしっかりと周知してほしい。

以上